

【データで考える子どもの世界】
第3回

教育格差について
考えるデータ

2021年2月2日（水）

ベネッセ教育総合研究所

木村 治生

【注意】

- データの引用・転載にあたっては、出典をご明記いただくようお願いいたします。なお、ベネッセ教育総合研究所のデータについては、[引用・転載のルール](#)にしたがってご利用ください。
- 本データ集の資料は、発行日時点に公表されているものを扱っていますが、その後、最新のデータが更新されている可能性があります。

世帯年収、父親・母親学歴、父親職種

- 世帯年収の平均は760万円。子どもの学年が上がるのに比例して、世帯の年収も高くなる
- 本調査における大卒者(短大含む)の割合は、父親5割強、母親6割弱。
- 父親の職種は、「専門技術」「事務・営業」が多い。学年に比例して「管理」が増える。

● 図表1: 世帯年収・保護者学歴・父親職種



* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小1~高3の保護者15,598名。父親学歴、母親学歴、父親職種については、該当の親が「いない」ケースは除いて集計した。

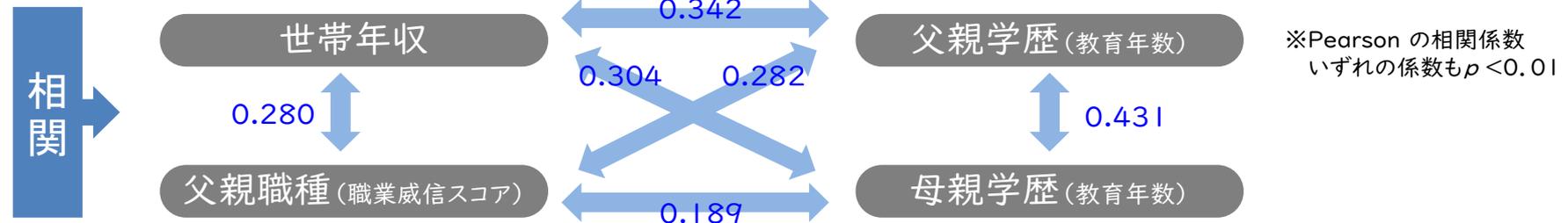
社会経済的地位 (SES)

- 世帯年収、父親・母親学歴、父親職種から社会経済的地位 (SES) を表す合成指標を作成。
- SESを1/4ずつのグループに分け、低い方から順にL層、LM層、UM層、H層とした。
- 世帯年収、父親・母親学歴、父親職種ともに、L層<LM層<UM層<H層となる。

● 図表2: 社会経済的地位 (Socio-economic Status: SES)

※大卒比率は、短大を含む。

	世帯年収 (万円)	父親学歴		母親学歴		父親職種 (職業威信スコア)	
		教育年数(年)	大卒比率(%)	教育年数(年)	大卒比率(%)		
全体平均	759.9	14.7	52.7	14.3	58.6	54.8	
低 SES ↑ ↓ 高	L層 (Lowest SES) もっとも低い1/4	475.8	12.2	5.8	12.7	19.6	47.0
	LM層 (Lower Middle SES) 中下位の1/4	638.6	14.2	40.1	14.0	50.4	50.4
	UM層 (Upper Middle SES) 中上位の1/4	789.2	15.4	72.3	14.9	74.1	55.4
	H層 (Highest SES) もっとも高い1/4	1142.1	16.5	91.2	15.7	89.1	64.8



* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

教育費支出

- 教育費支出(月額)は、小1~3から中学生にかけて高額になり、高校生は支出が少なくなる。
- いずれの学校段階でも、教育費支出は「L層<LM層<UM層<H層」の順に高額になる。
- L層とH層の差は中学生では1.5倍だが、それ以外の学校段階では2.3~2.4倍の違いがある。

●図表3:教育費支出(子ども1人当たり平均、月額)(SES別)

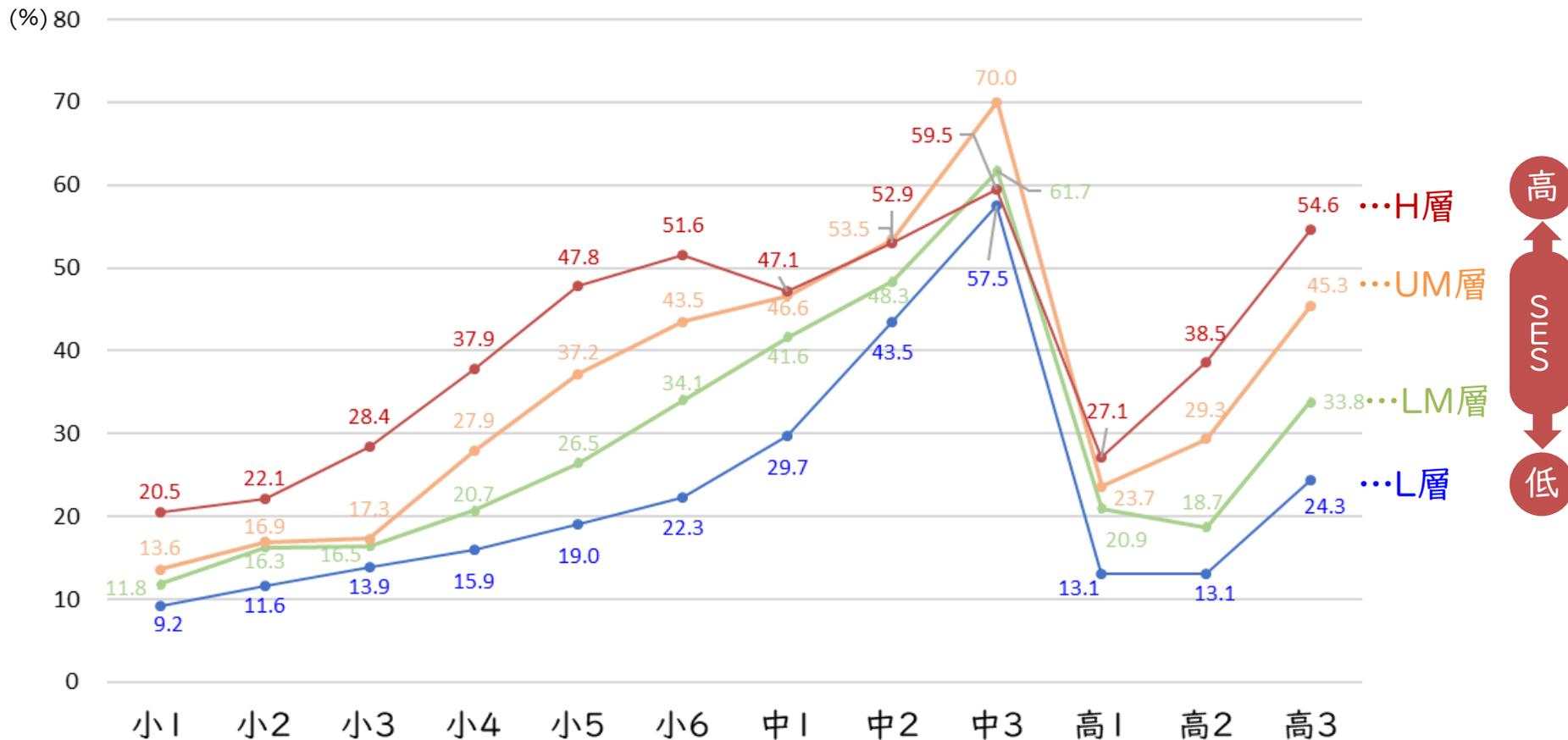


*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」
*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

※分散分析
いずれの係数も $p < 0.001$

- 通塾率は基本的にはSESが高いほど上がり、「L層<LM層<UM層<H層」の傾向がみられる。
- その傾向が強いのは、中学受験が目前に迫る「小4~6」と大学受験が目前に迫る「高2~3」である。
- 中学生だけ傾向が異なり、全体に階層差が縮まる。これは高校受験と関連していると考えられる。

●図表4:通塾率 (SES別)



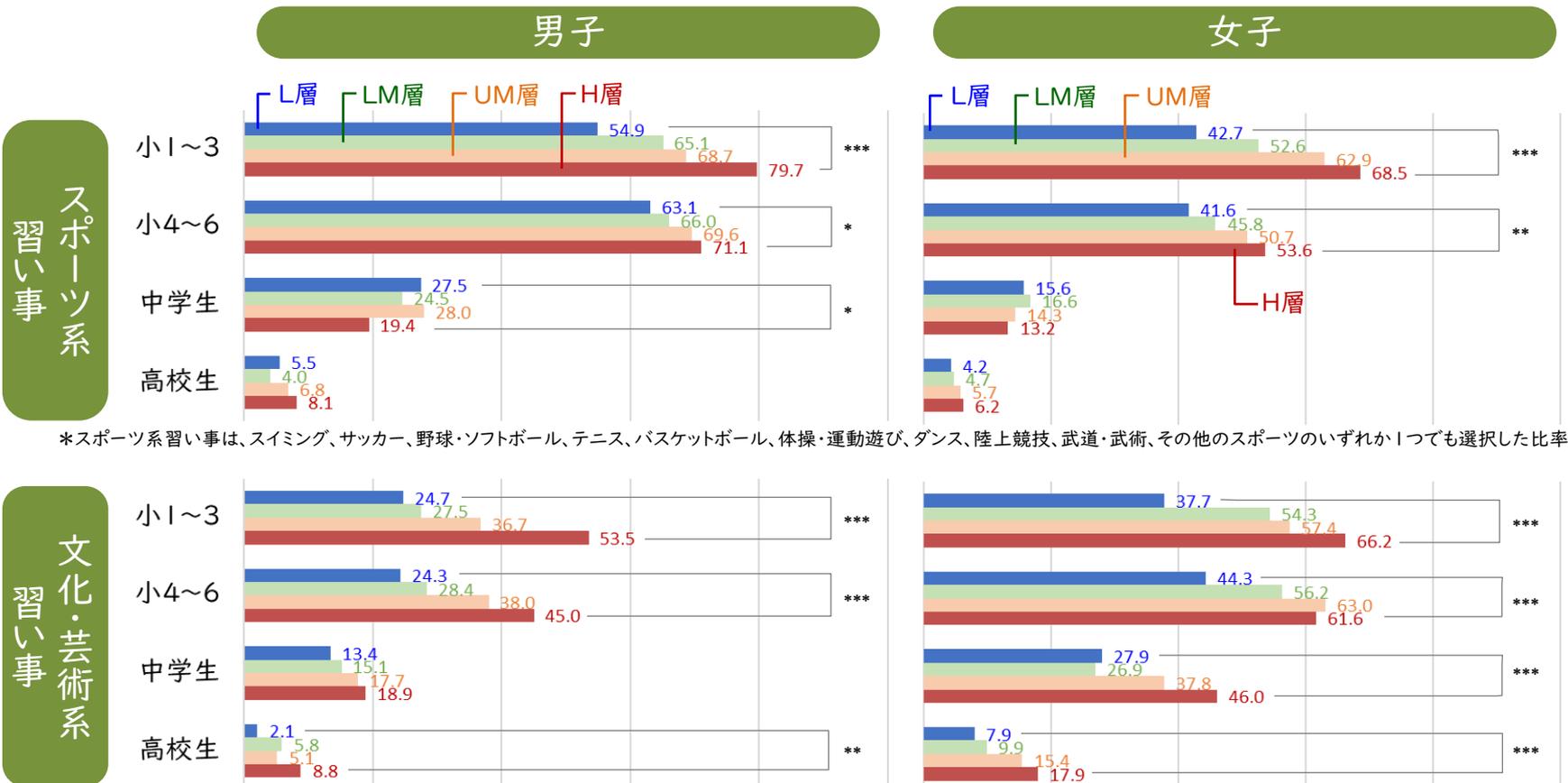
*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

習い事

- 習い事も通塾と同様にSESが高いほど上がり、「L層<LM層<UM層<H層」の傾向がみられる。
- その傾向は「小1~3」に顕著で、学年が上がるとともに比率が低下し、SESによる差は小さくなる。
- 女子の文化・芸術系習い事は、学年が上がってもSESによる差は残る。

● 図表5: 習い事 (SES別) (%)

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$ 

*スポーツ系習い事は、スイミング、サッカー、野球・ソフトボール、テニス、バスケットボール、体操・運動遊び、ダンス、陸上競技、武道・武術、その他のスポーツのいずれか1つでも選択した比率。

*文化・芸術系習い事は、楽器・音楽教室、絵画・造形教室、バレエ、習字・硬筆、そろばん、英会話・英語教室、その他の文化活動のいずれか1つでも選択した比率。

*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

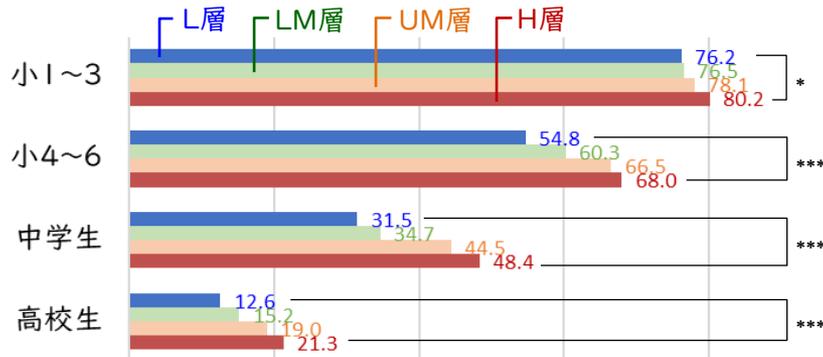
*対象: 小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

子どもの学習への関与①

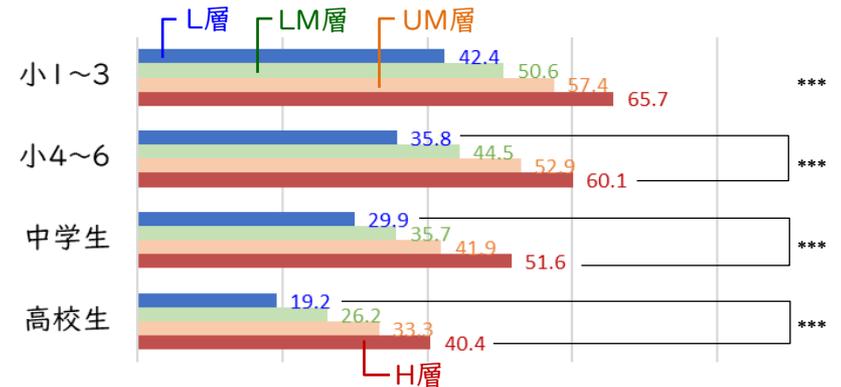
- 子どもの学習への関与は、子どもの学年が上がるにつれて減る傾向がある。
- SES別にみた子どもの学習への関与は、学校段階を問わず「L層<LM層<UM層<H層」の傾向。
- SESが高い保護者は、勉強の内容だけでなく、学習の面白さや学習方法(方略)を教えている。

●図表6:子どもの学習への関与①(SSES別) (「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%)

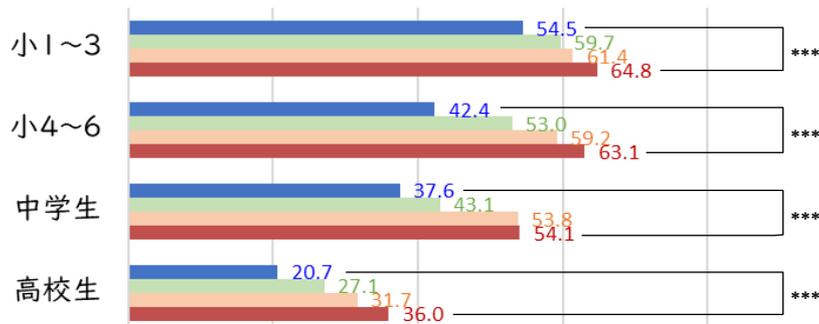
勉強の内容を教える



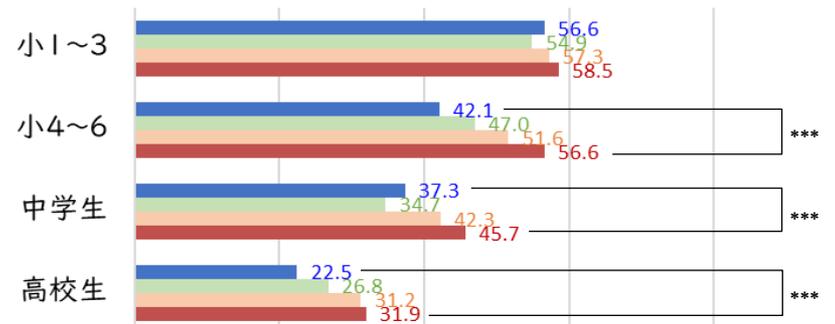
勉強の面白さを教える



勉強の計画の立て方を教える



問題のいろいろな解き方を考えるように言う



*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

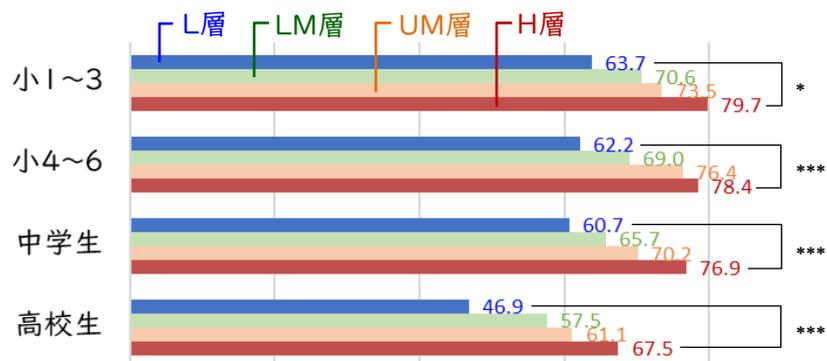
※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$

子どもの学習への関与②

- SESが高い保護者は、学習の意味や価値を伝える傾向があり、L層とH層の差は高校生で拡大する。
- 勉強で悩んだときに相談にのるようなカウンセリング機能も、SESが高い保護者の方が肯定。
- 学習環境を整えることは多くの保護者が行っているが、やはりSESが高い保護者の方が肯定。

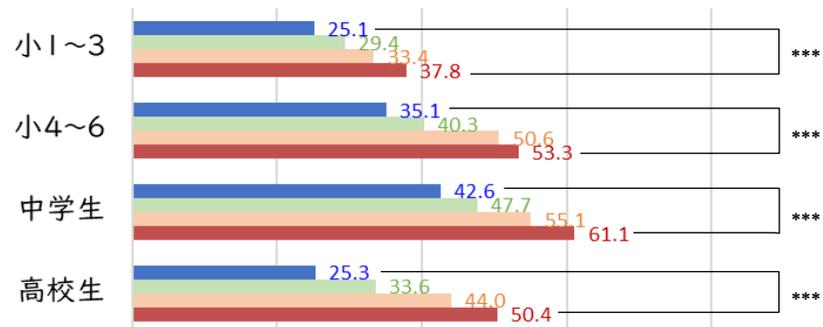
●図表7:子どもの学習への関与② (SES別) (「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%)

勉強の意義や大切さを伝える

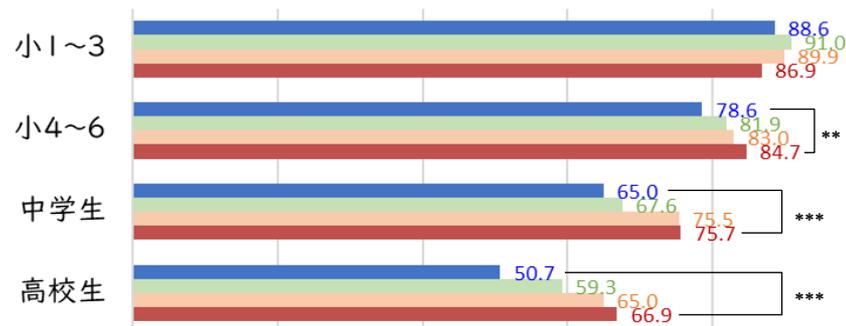


いい大学を卒業することは大切だと言う

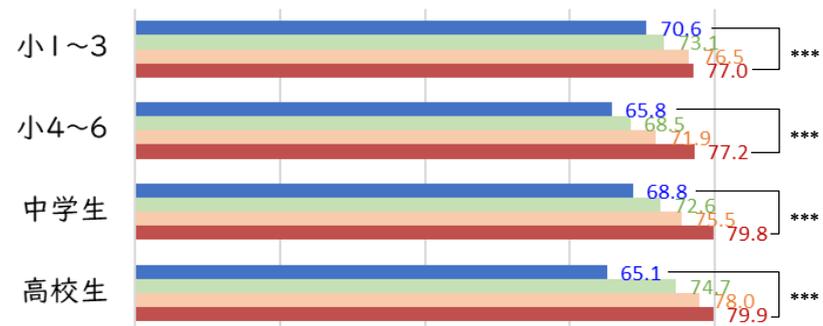
※小中学生の保護者は「いい高校や大学を卒業することは大切だと言う」



勉強で悩んだときに相談にのる



落ち着いて勉強できる環境を整える



*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

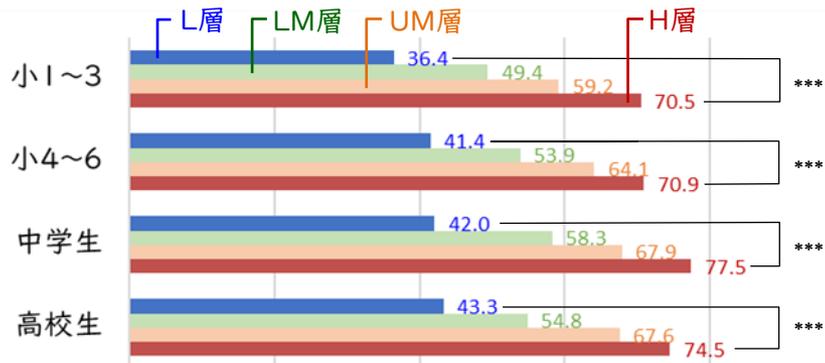
※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$

教育観

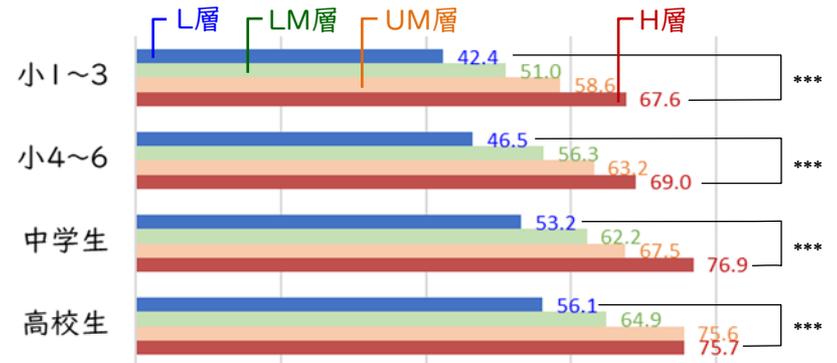
- 保護者の教育観はSESによって大きく異なる。「成績を上げてほしい」「教育にはお金をかけたい」「一般の流れに乗り遅れない」は、SESが高い保護者の方が肯定している。
- 夫婦間で子どもの教育について考えることも、SESが高い保護者の方が多い。

●図表8:教育観(SES別) (「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%)

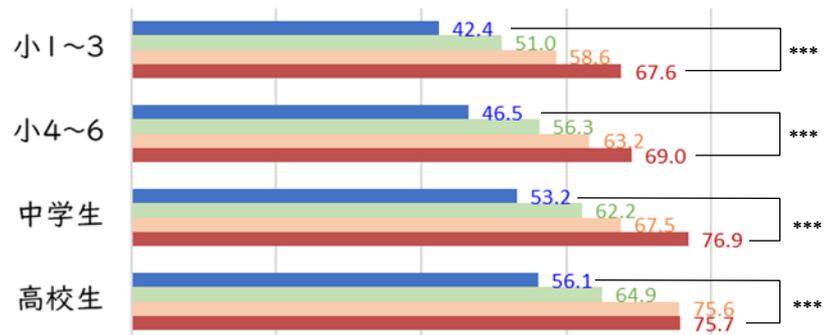
できるだけいい大学に入れるように成績を上げてほしい



多少無理をしても子どもの教育にはお金をかけたい



子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている



子どものしつけや教育については夫婦で考えている



*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$

希望する進学段階（保護者）

- SESが高い保護者ほど子どもに大学進学を希望する比率が高くなる。
- L層は希望する進学段階の回答が分かれるのに対して、H層では8割以上が大学以上を希望する。
- 保護者が希望する進学段階は、親自身の属性と関連する。また、その希望は子どもの希望と関連する。

●図表9:保護者の希望する進学段階（SES別）



●図表10:属性と希望進路の関連

※Pearson の相関係数、いずれの係数も $p < 0.01$ 

*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

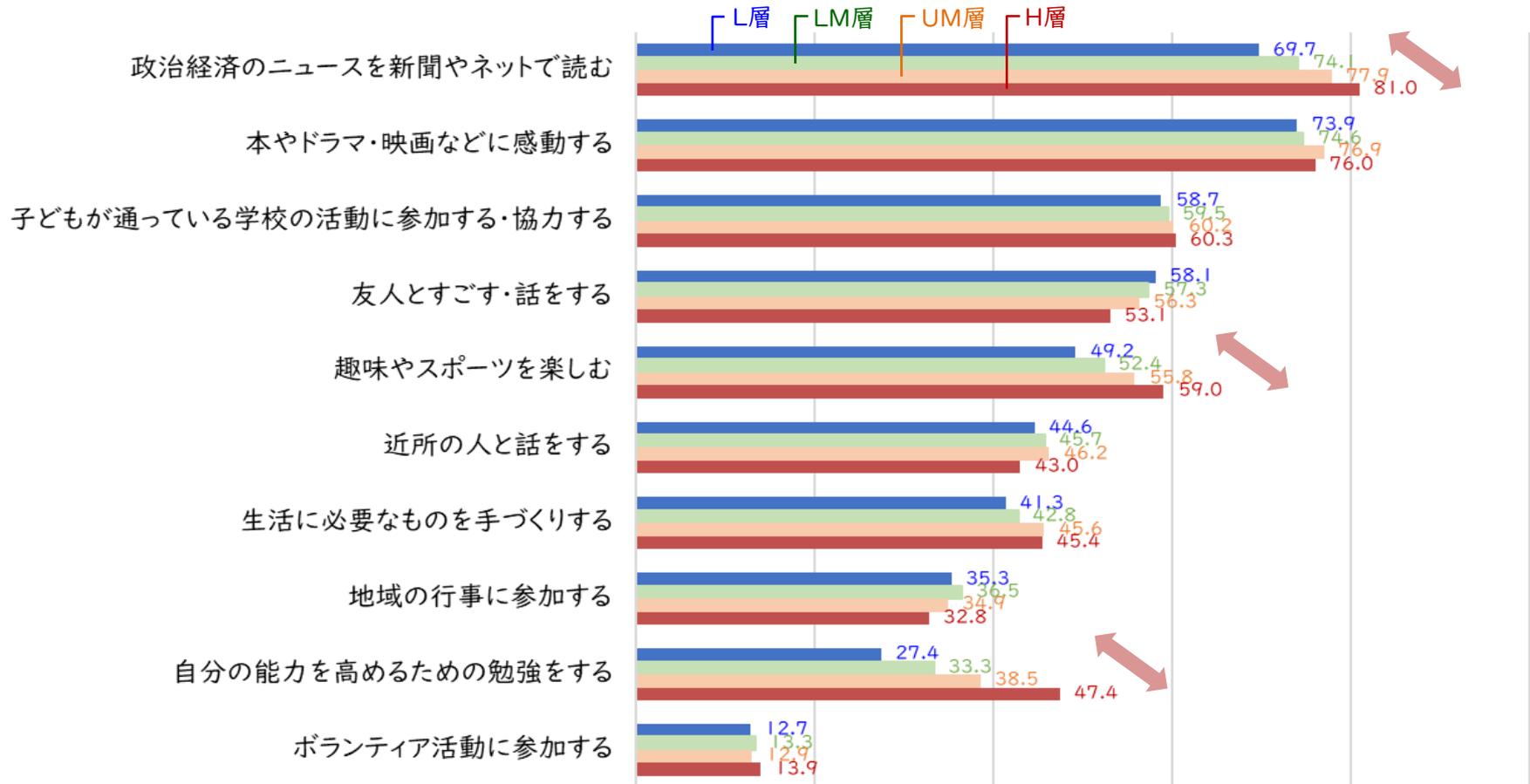
*対象:小1~高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

👉「図表22:子の希望する進学段階」参照

ふだんの生活

- 保護者のふだんの生活についてたずねた結果で多かったのは「ニュースを新聞やネットで読む」。
- 「ニュースを新聞やネットで読む」「趣味やスポーツを楽しむ」「勉強をする」の3項目は、SESが高い保護者ほど「ある」比率が高い。高階層は、ちた文化的な活動をよくしている様子がうかがえる。

●図表11：ふだんの生活（SES別）（「よくある」+「ときどきある」の%）



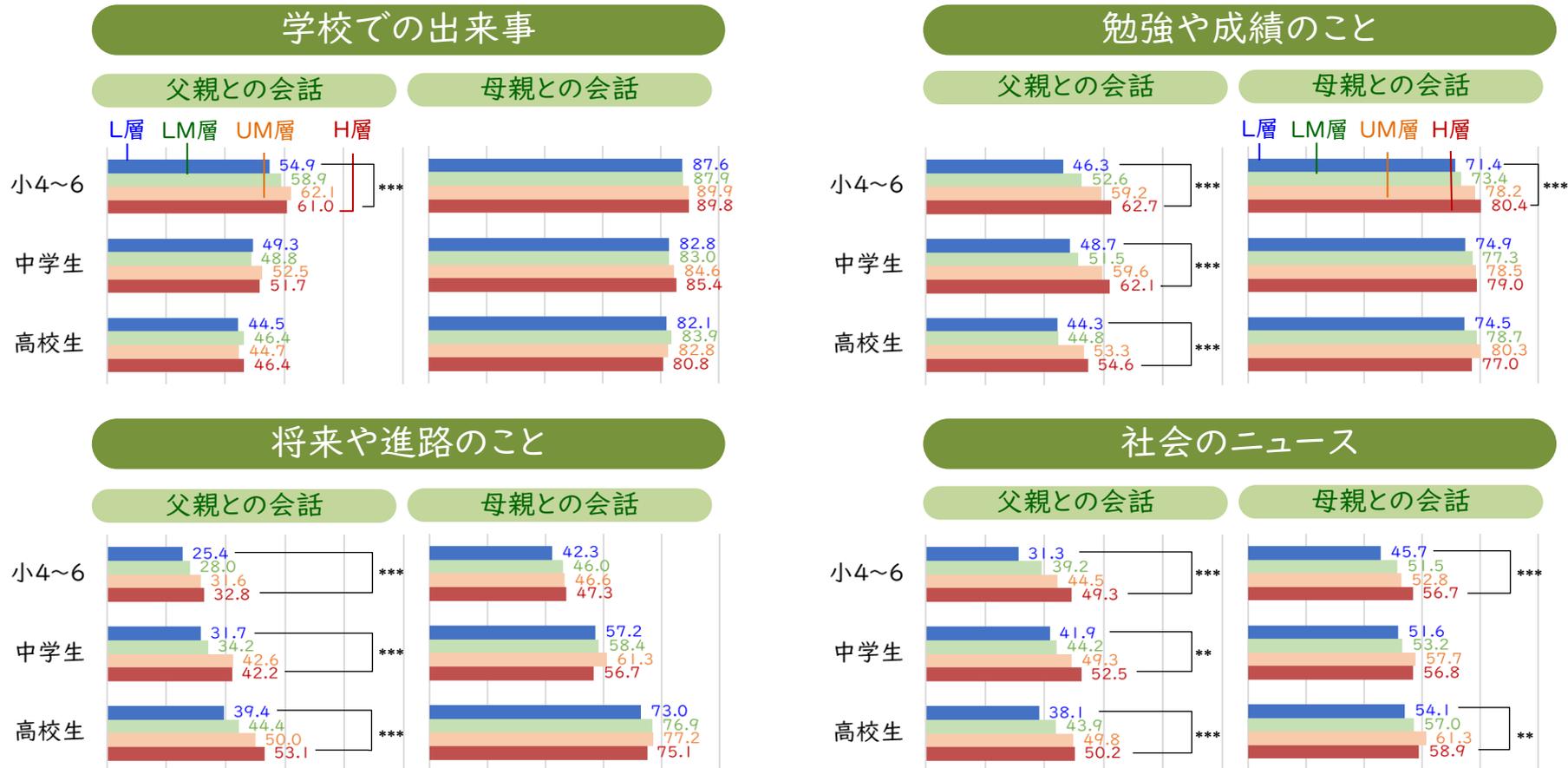
*出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象：小1～高3の保護者15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。

保護者との会話

- 「勉強や成績」「将来や進路」「社会のニュース」などは、SESが高い家庭の親子ほどよく話している。「学校での出来事」を除いて、「L層<LM層<UM層<H層」の傾向がみられる。
- 全体に父親よりも母親との会話の頻度が高いが、SESによる差は父親との会話の方に表れている。

● 図表12: 保護者との会話 (SES別) (「よく話す」+「ときどき話す」の%)

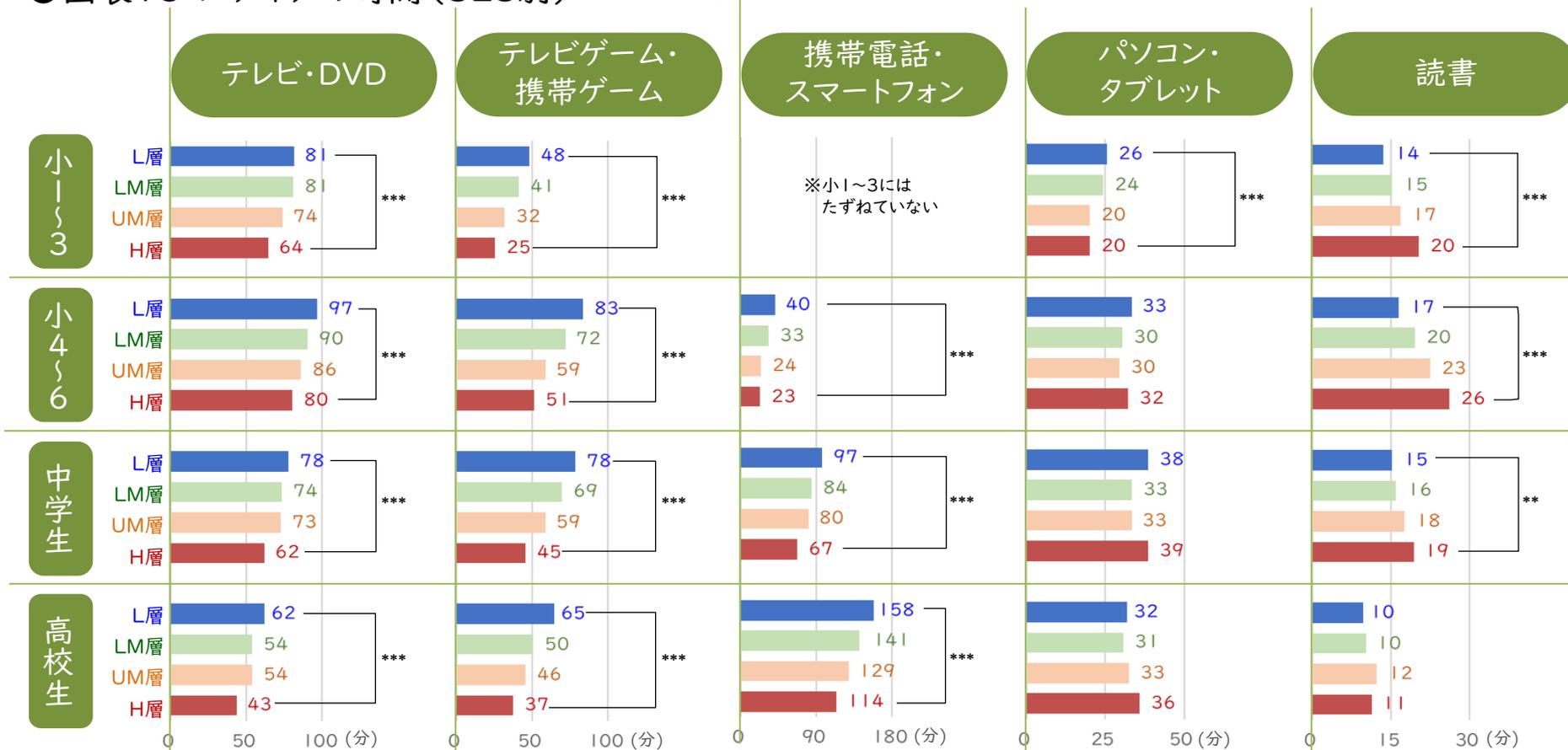


* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 「テレビ」「ゲーム」「携帯・スマホ」は、SESが低い家庭の子どもほど長い傾向がみられる。
- 「パソコン・タブレット」は、SESによる違いはほとんどない。
- 「読書」は、SESが高い家庭の子どもほど長い傾向がみられる。

●図表13:メディアの時間 (SES別) (時間は非行為者も含む1日当たりの全体平均に換算)

※分散分析 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 

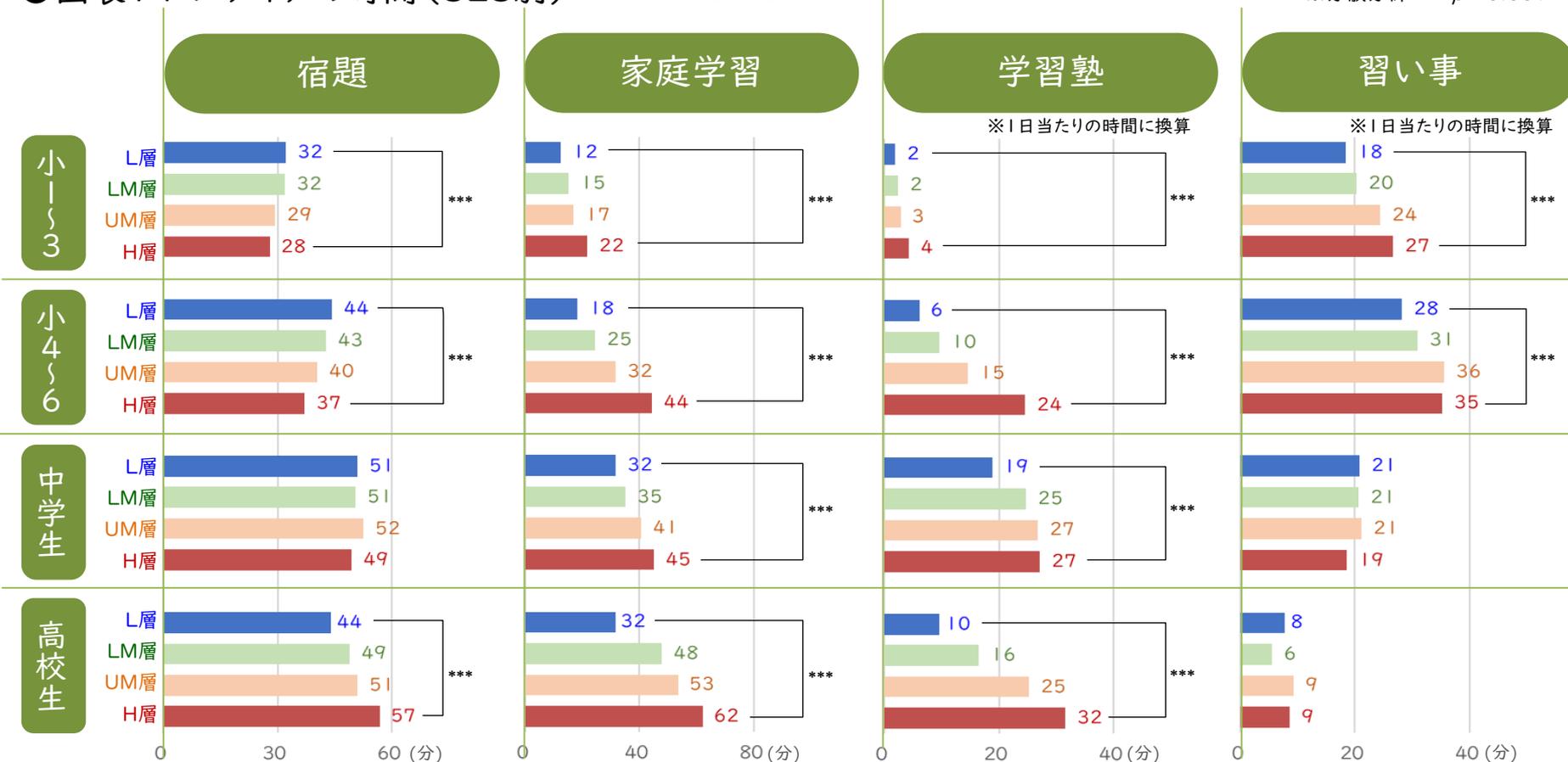
*出典:東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象:小1~高3の15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。小1~3は保護者が回答、小4~高3は子どもが回答。

- 「宿題」は、小学生のうちにはSESが低い家庭の子ほど長く、高校生はSESが高い家庭の子ほど長い。
- 「家庭学習」「学習塾」は、SESが高い家庭の子どもほど長く、「L層<LM層<UM層<H層」である。
- 「習い事」は、小学生のうちにはSESが高い家庭の子ほど長い。

● 図表14: メディアの時間 (SES別) (時間は非行為者も含む1日当たりの全体平均に換算)

※分散分析 *** $p < 0.001$

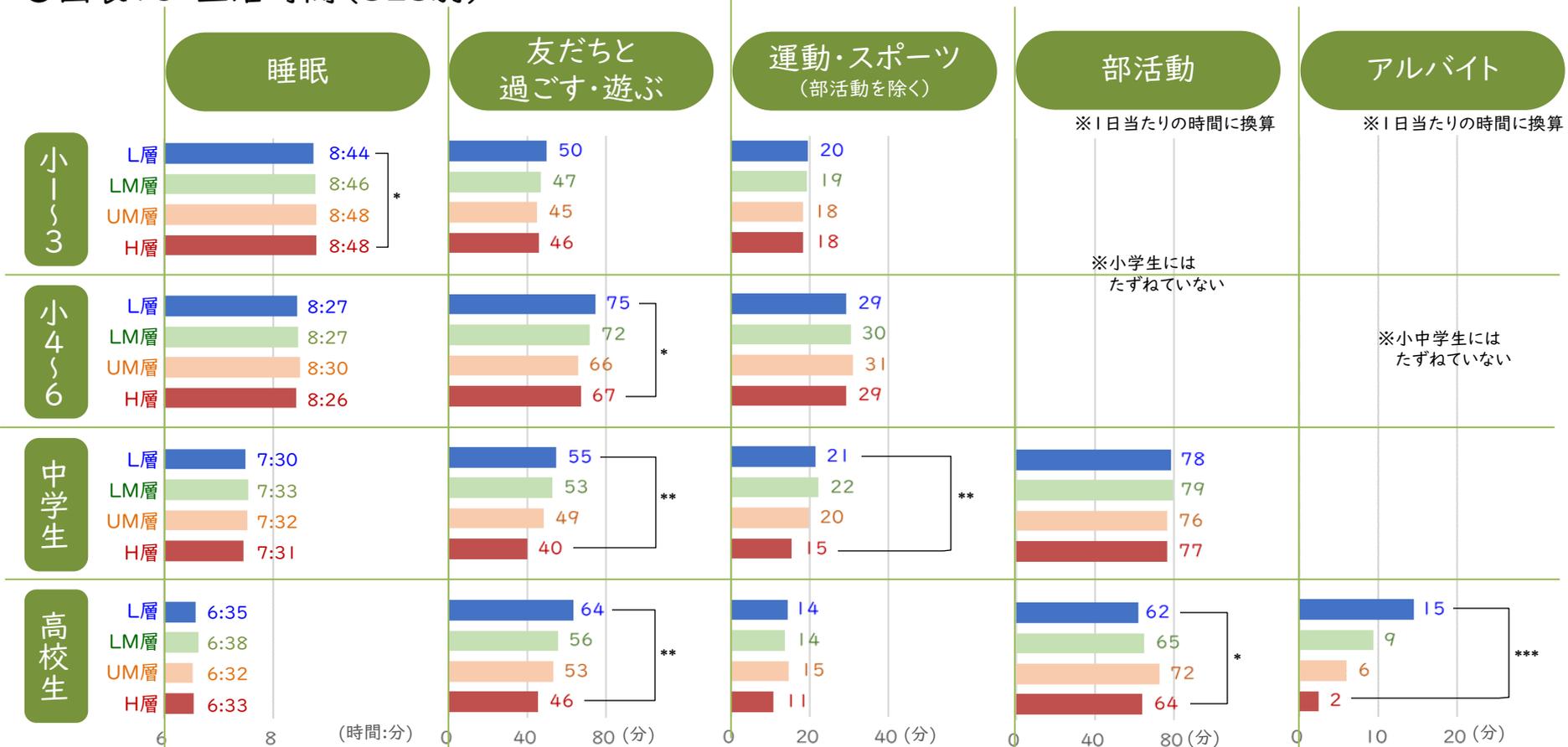


* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小1~高3の15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。小1~3は保護者が回答、小4~高3は子どもが回答。

- 「睡眠」「運動・スポーツ」「部活動(中高生のみ)」は、SESによる違いはほとんどみられない。
- 「友だちと過ごす・遊ぶ」は、SESが低い家庭の子ほど長い傾向がみられる。
- 「アルバイト(高校生のみ)」は、SESが低い家庭の子どもほど長い。

● 図表15: 生活時間 (SES別) (時間は非行為者も含む1日当たりの全体平均に換算)

※分散分析 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 

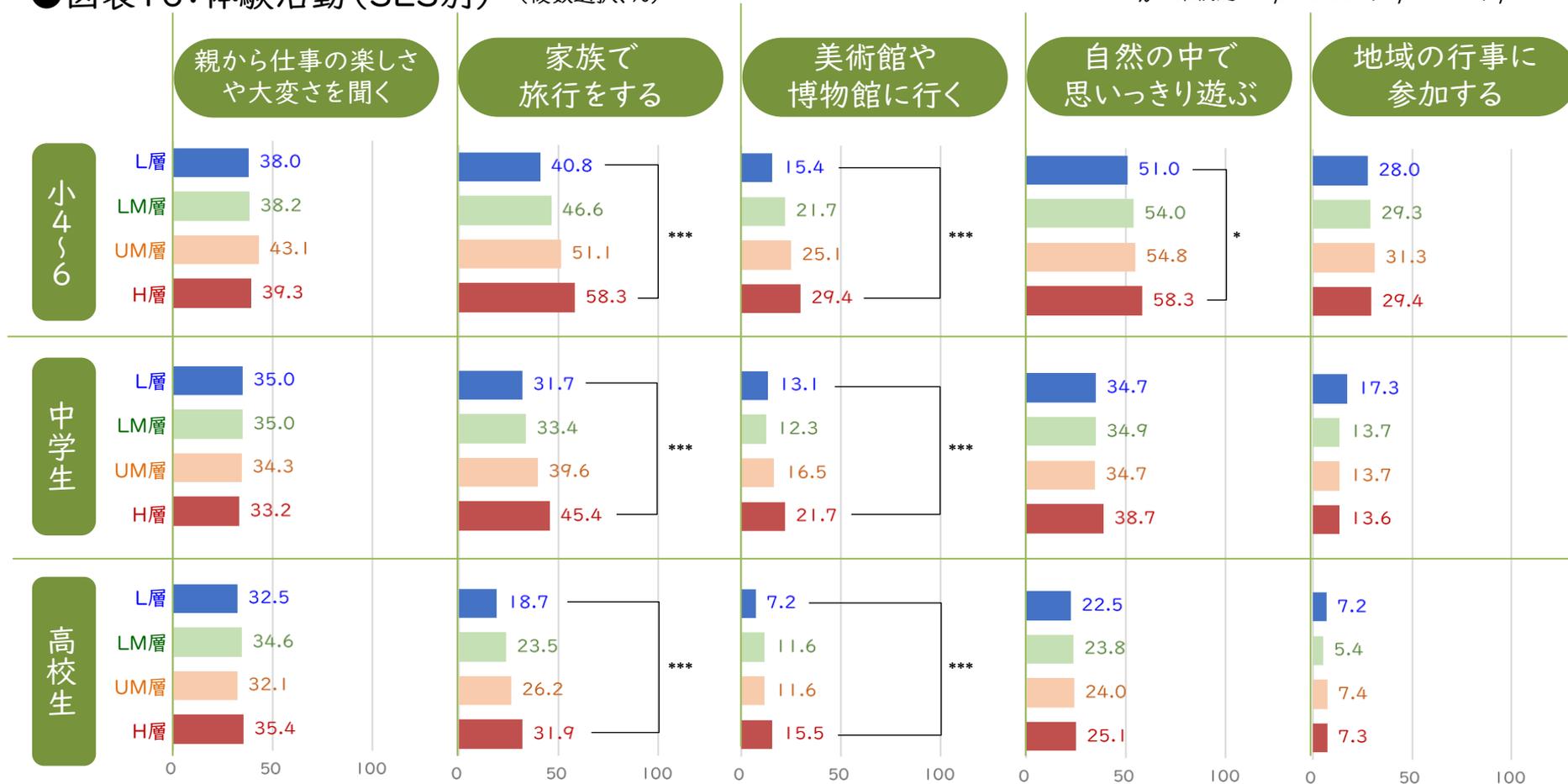
* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小1~高3の15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。小1~3は保護者が回答、小4~高3は子どもが回答。

体験活動

- 「家族で旅行をする」「美術館や博物館に行く」は、SESが高い家庭の子ほど多い傾向がみられる。
- 「自然の中で思いっきり遊ぶ」「地域の行事に参加する」は、SESによる違いがほとんどない。
- コロナ禍でこうした体験活動が減少していることが懸念される。

● 図表16: 体験活動 (SES別) (複数選択、%)

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$ 

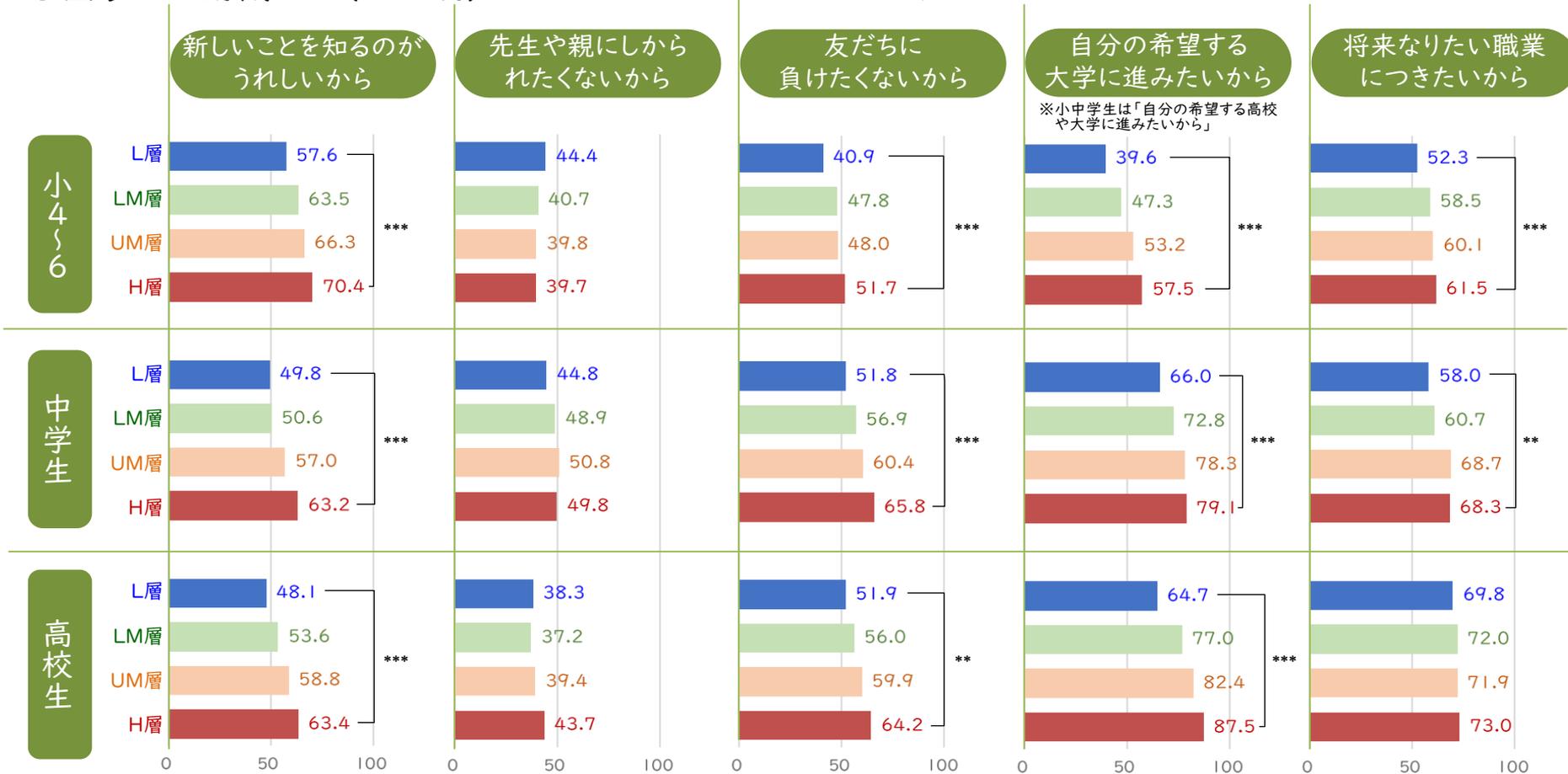
* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 対象: 小4～高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 「新しいことを知るのがうれしいから」「友だちに負けたくないから」「自分の希望する大学に進みたいから」「将来なりたい職業に就きたいから」は、SESが高い家庭の子ほど肯定する比率が高い。
- 「先生や親に叱られたくないから」は、SESによる違いがみられない。

● 図表17: 動機づけ (SES別) (「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%)

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$

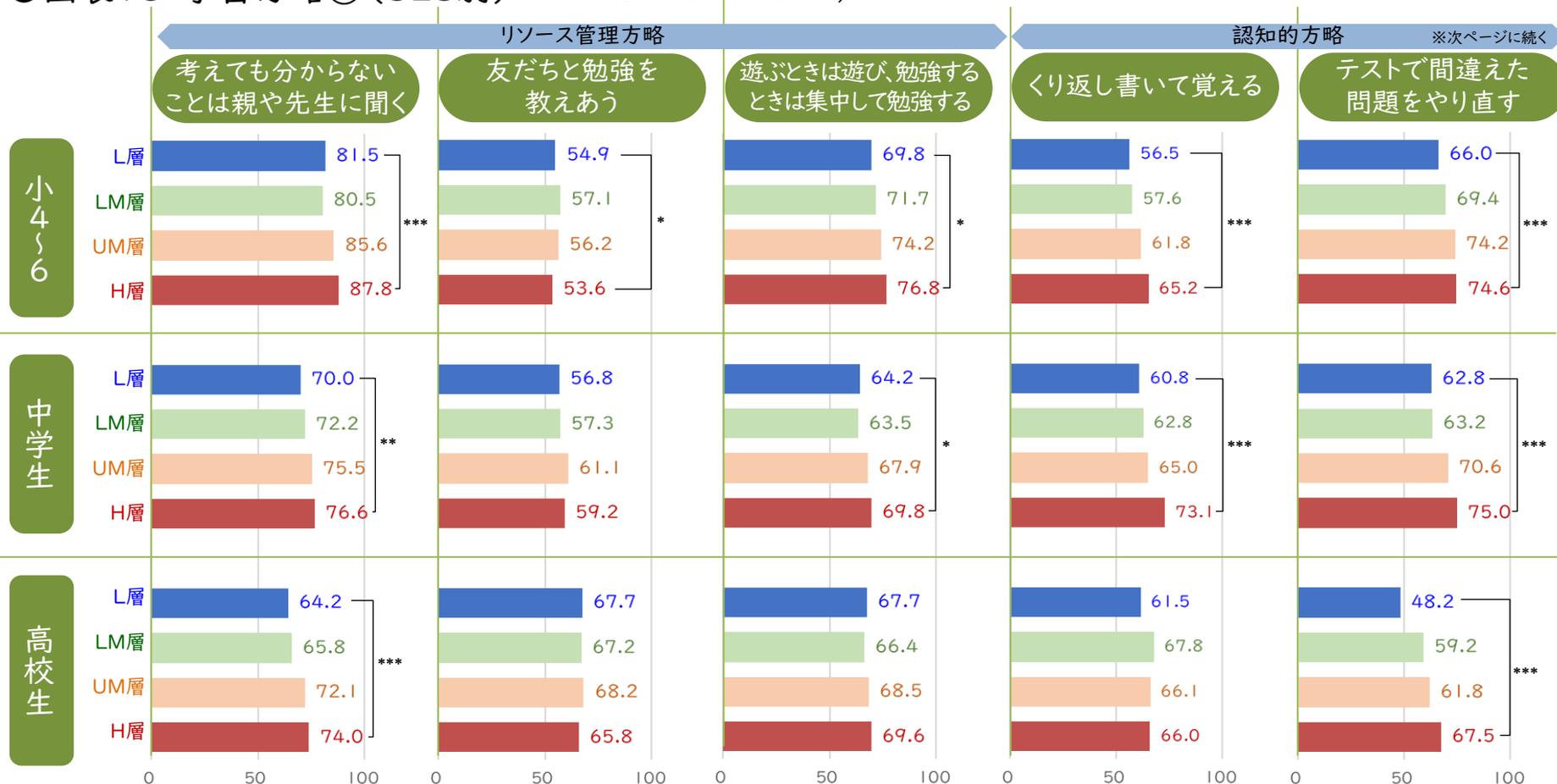


* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 全体に、SESが高い家庭の子ほどさまざまな学習方略を実行している比率が高い。
- 高校生よりも小学生や中学生にSESによる差が見られる項目が多い。
- 「テストで間違えた問題をやり直す」はSESによる差が大きい。とくに、中高生に顕著である。

● 図表18: 学習方略① (SES別) (「よくする」+「ときどきする」の%)

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$ 

*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象: 対象: 小4〜高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 総じてSESが高い家庭の子ほど多くの学習方略を採用しており、「L層<LM層<UM層<H層」。
- 特に、メタ認知を働かせて学習をコントロール/モニタリングするようなメタ認知的方略は、小学生から高校生まで全体にSESによる差が生じている。

● 図表19: 学習方略② (SES別) (「よくする」+「ときどきする」の%)

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$ 

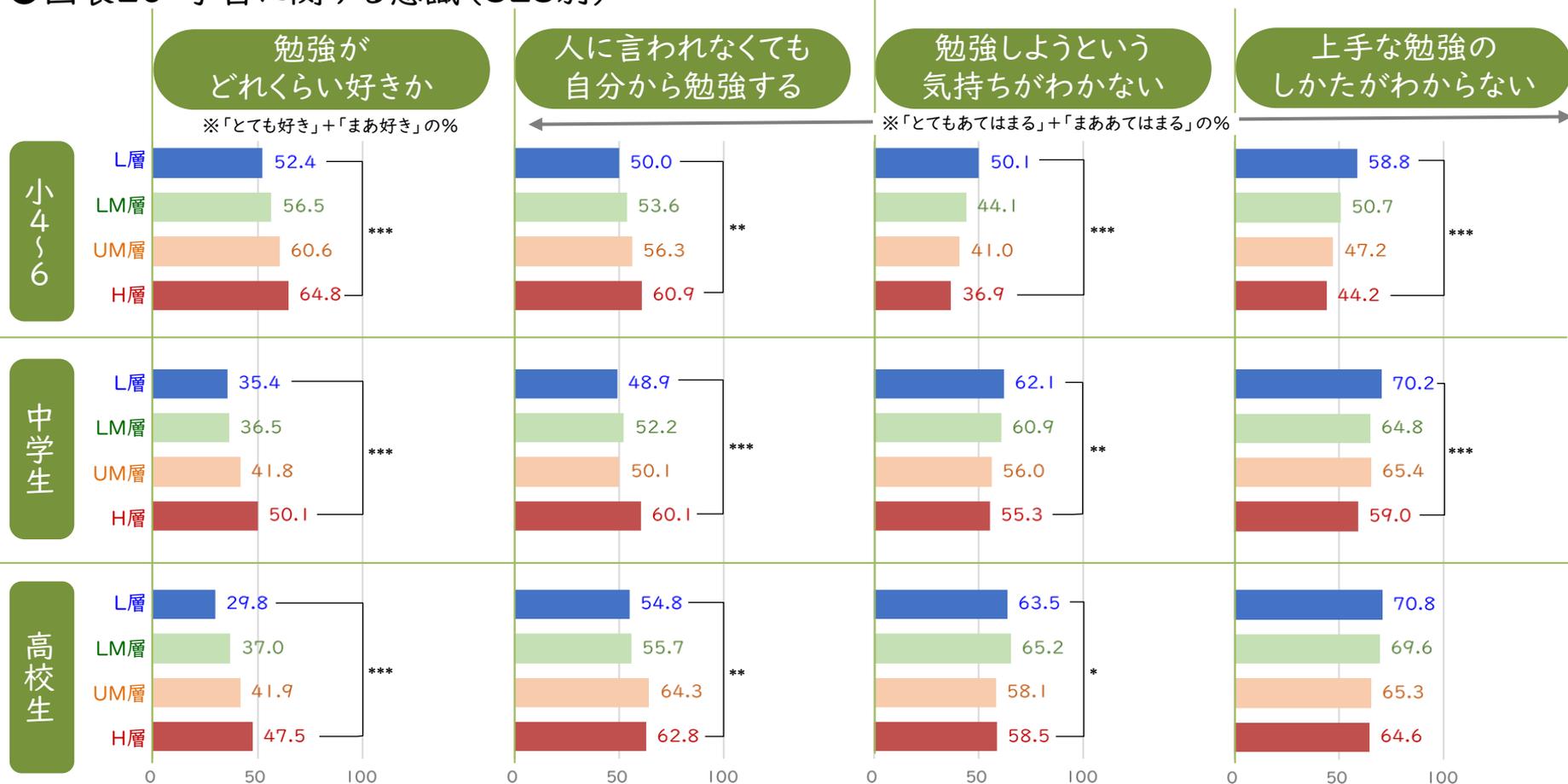
*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象: 対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

学習に関する意識

- 学習に関する意識にもSESによる格差がみられる。
- 「勉強が好き」「自分から勉強」は、SESが高い家庭の子ほど肯定率が高い。
- 勉強の「気持ちがわからない」「しかたがわからない」は、SESが低い家庭の子ほど肯定率が高い。

● 図表20: 学習に関する意識 (SES別)

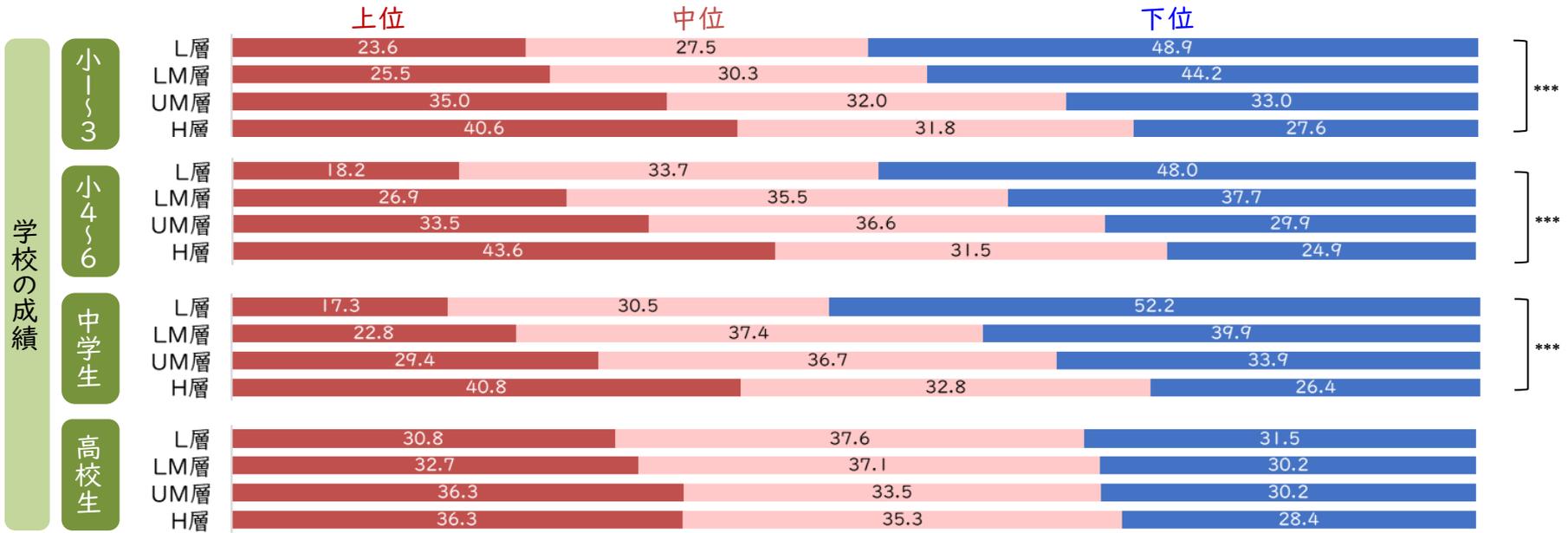
※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$ 

*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 学校の成績は、小～中学生ではSESが高い家庭ほど「上位」の比率が高くなる。
- 高校生では、SESによる差は学校の成績についてはみられないが、模試成績には差がみられる。
SESが高い家庭の高校生ほど、模試成績で「上の方」「真ん中より上」が多い。

●図表21：学業成績（SES別）（%）

※ χ^2 乗検定 *** $p < 0.001$ 、** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$ 

※学校の成績は、小1～3は国語・算数、小4～6は国語・算数・理科・社会、中高生は国語・数学・理科・社会・英語の自己評価（5段階）を合計し、「上位」「中位」「下位」がそれぞれ1/3ずつになるように分割した。



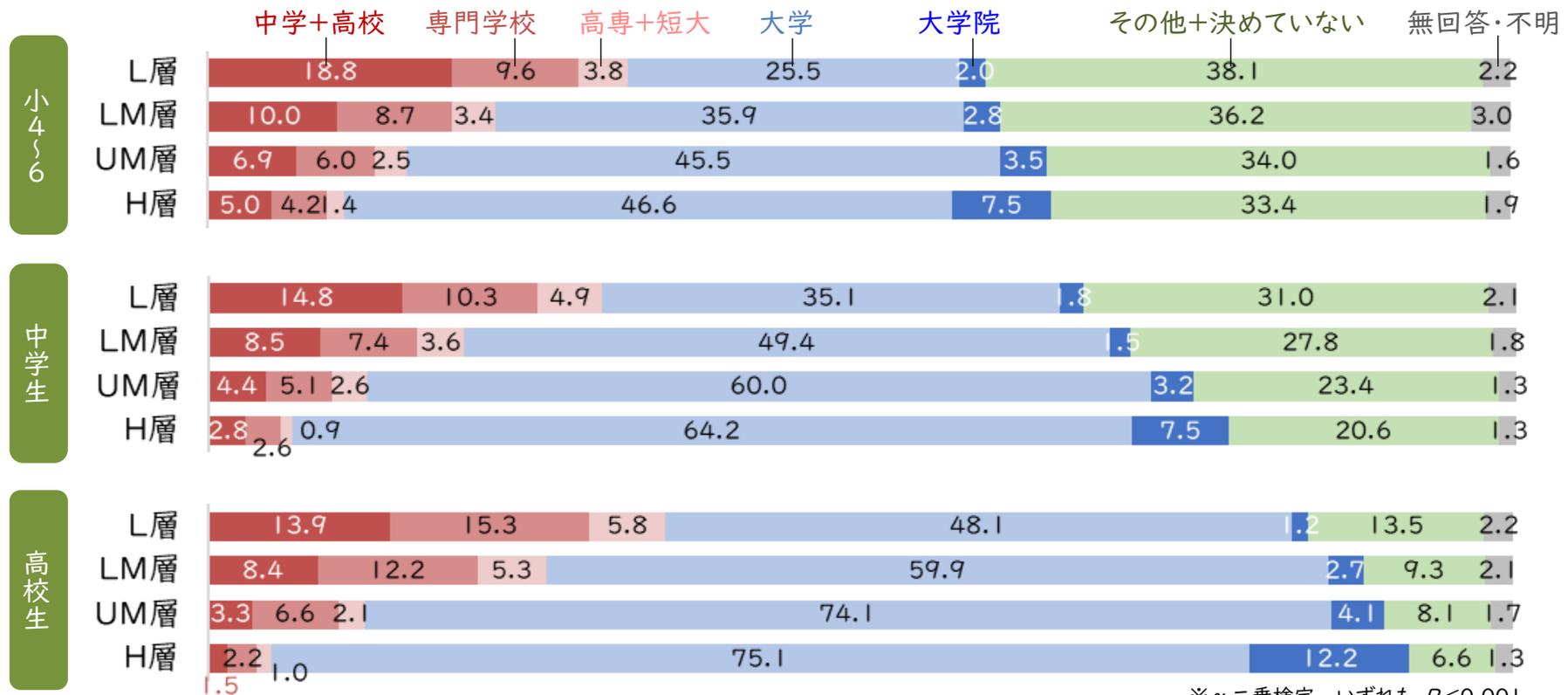
*出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象：小1～高3の15,598名のうち、SESが判別できた15,552名を分析。小1～3は保護者が回答、小4～高3は子どもが回答。

希望する進学段階(子ども)

- 学校段階が上がるにつれて、「その他+まだ決めていない」が減少し、「大学」希望が増える。
- 学校段階を問わず、SESが高い家庭の高校生ほど、「大学」や「大学院」を希望する。
- H層の「大学+大学院」希望の比率は、L層と比べて2倍に近い開きがある。

● 図表22: 子の希望する進学段階 (SES別) (%)

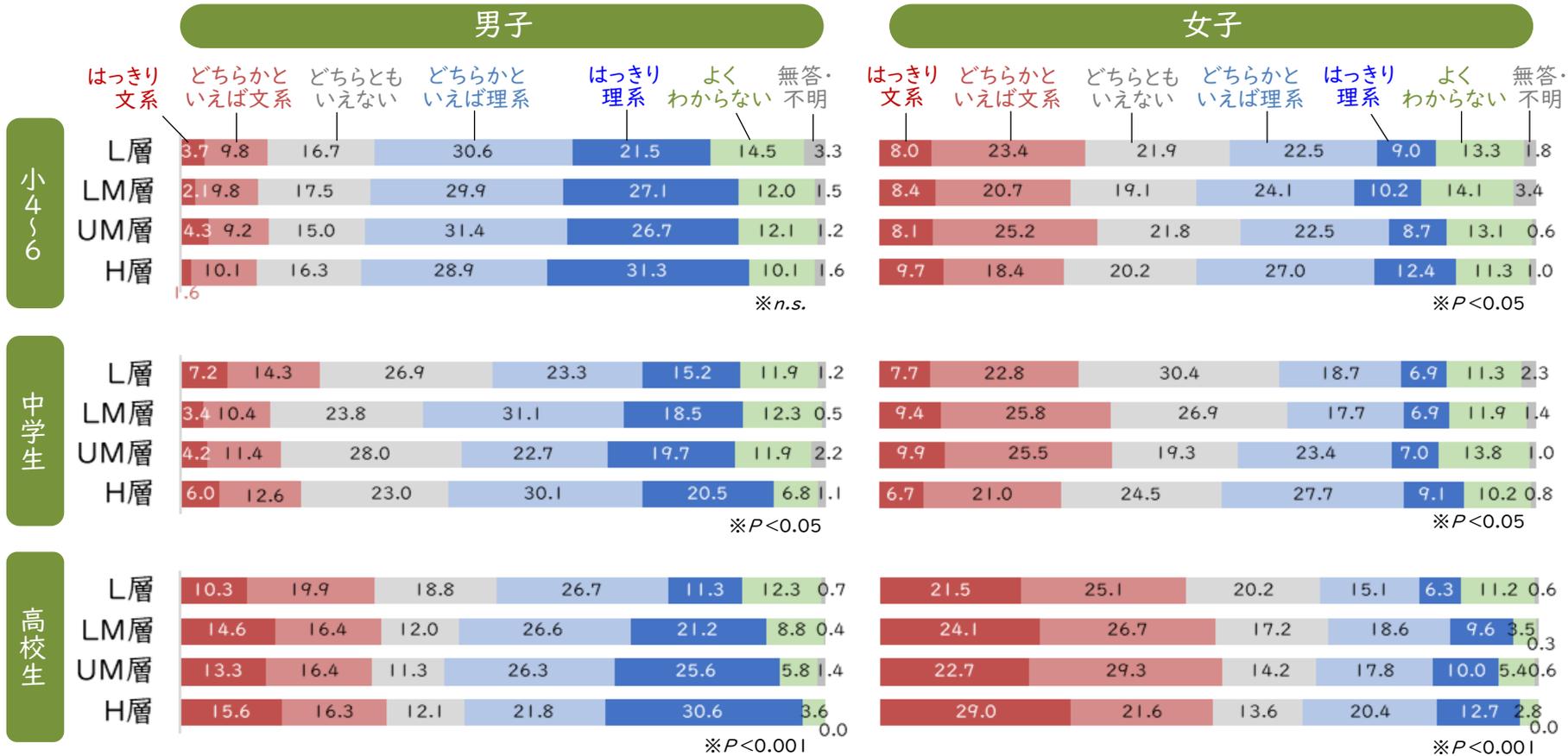
※ χ^2 二乗検定 いずれも、 $P < 0.001$

* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

- 男子は「理系」が多く、女子は「文系」が多い傾向がある。
- 学年が上がるとともに「理系」「よくわからない」が減り、「文系」が増える。
- わずかだが、SESが高い家庭の子どもに「理系」が多い傾向がみられる。

●図表23:文理意識 (SES別) (%)

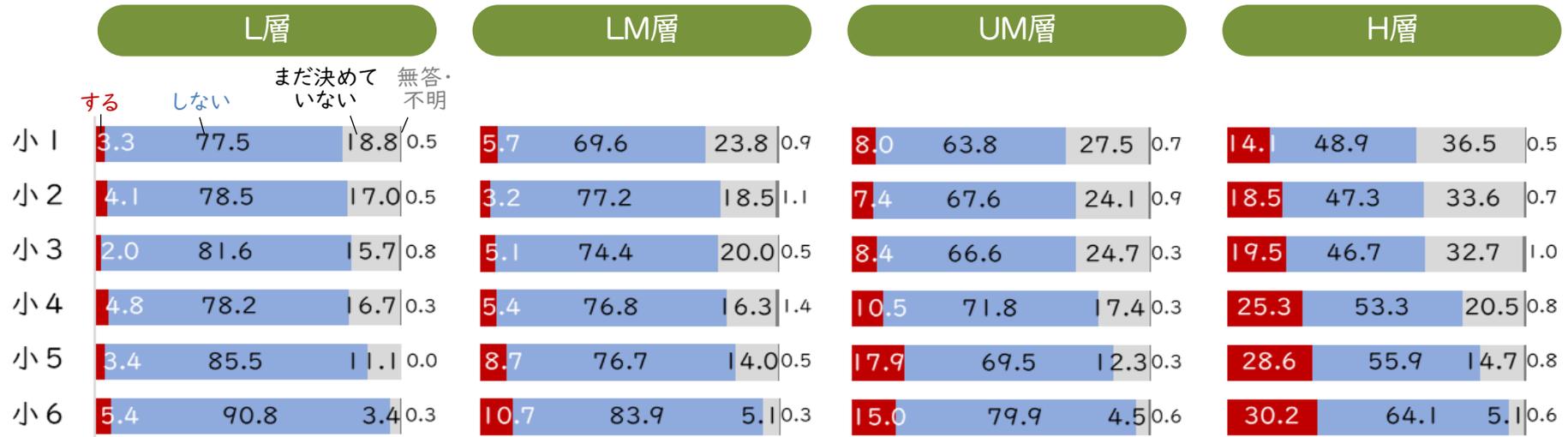


*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

*対象: 小4~高3の子ども10,532名のうち、保護者への調査でSESが判別できた10,502名を分析。

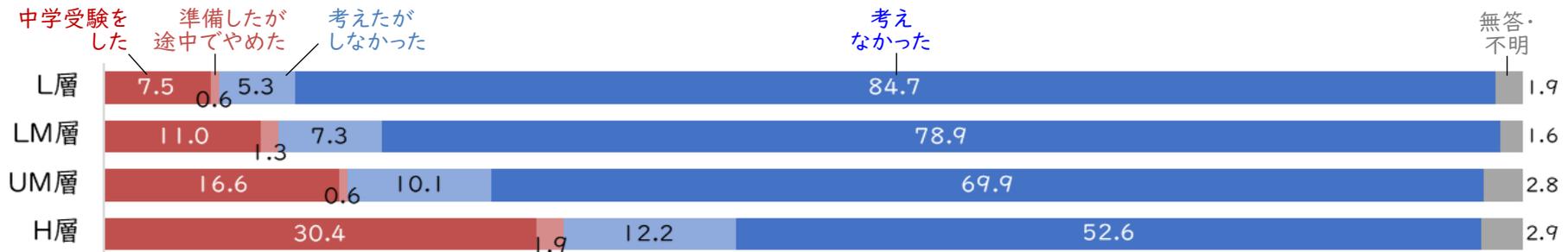
- 中学受験の意向は、学年が上がるとともに「まだ決めていない」が減り、「する」「しない」が増える。
- いずれの学年でもSESが高い保護者のほうが「する」意向をもつ傾向がみられる。
- 実際に「中学受験をした」のは、L層7.5% < LM層11.0% < UM層16.6% < H層30.4%だった。

● 図表24: 中学受験の意向 (SES別) ※小1~小6の保護者 (%)



※χ二乗検定 いずれの学年も、 $P < 0.001$

● 図表25: 中学受験 (SES別) ※中1の保護者 (%)



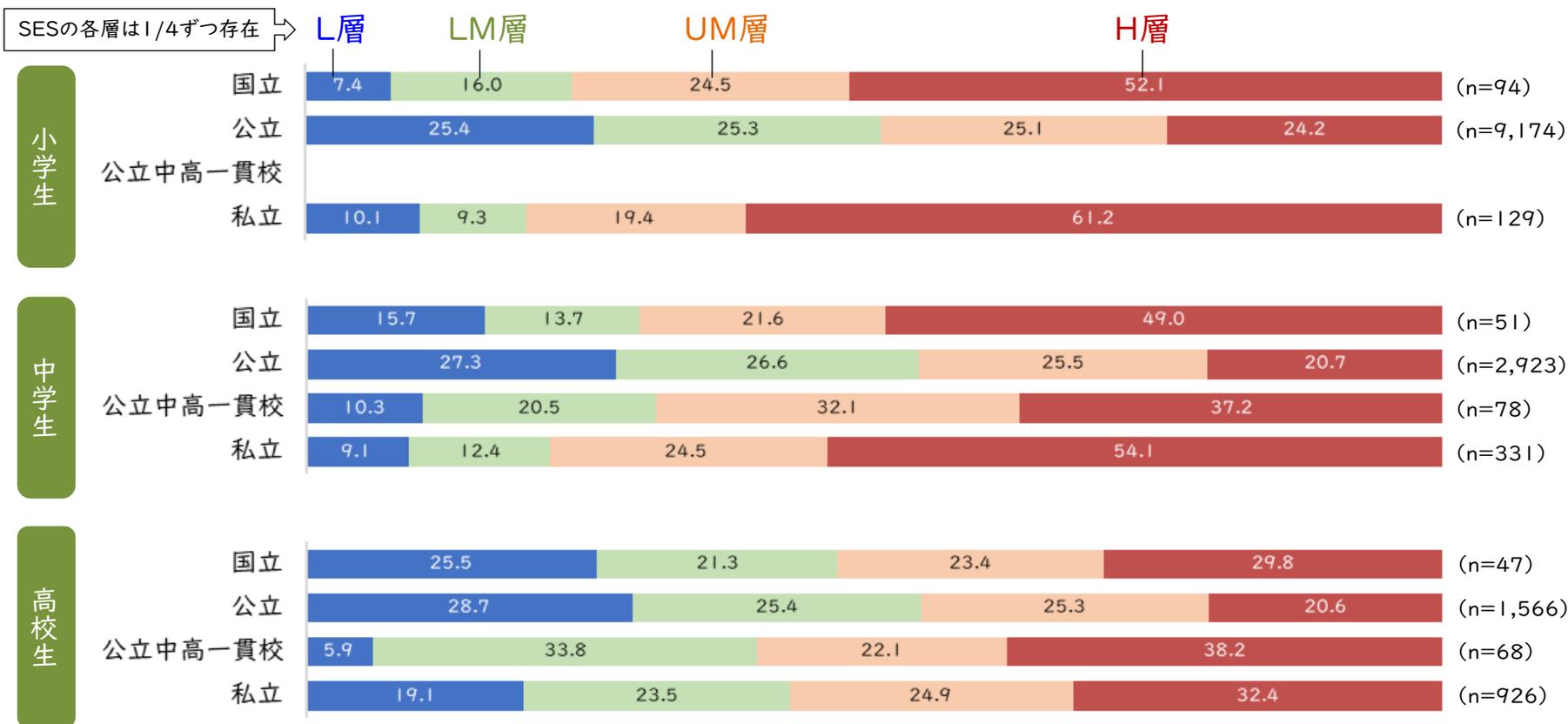
* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

* 対象: 図表24は小1~小6の保護者9,470名のうち、図表25は中1の保護者1,275名を分析。

通学する学校によるSESの違い

- 国立、公立中高一貫、私立に在学する子どものSESは高い傾向がある。
- たとえば、私立に通う中学生は、H層が54.1%であるのに対して、L層は9.1%しか在学していない。
- 公立はH層が少なく、L層が多い。多様な家庭的背景をもつ子どもが在学していることがわかる。

● 図表26: 通学する学校(国公私別)によるSESの違い (%)

※ χ^2 乗検定 いずれの学校段階も、 $P < 0.001$ 

* 出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」

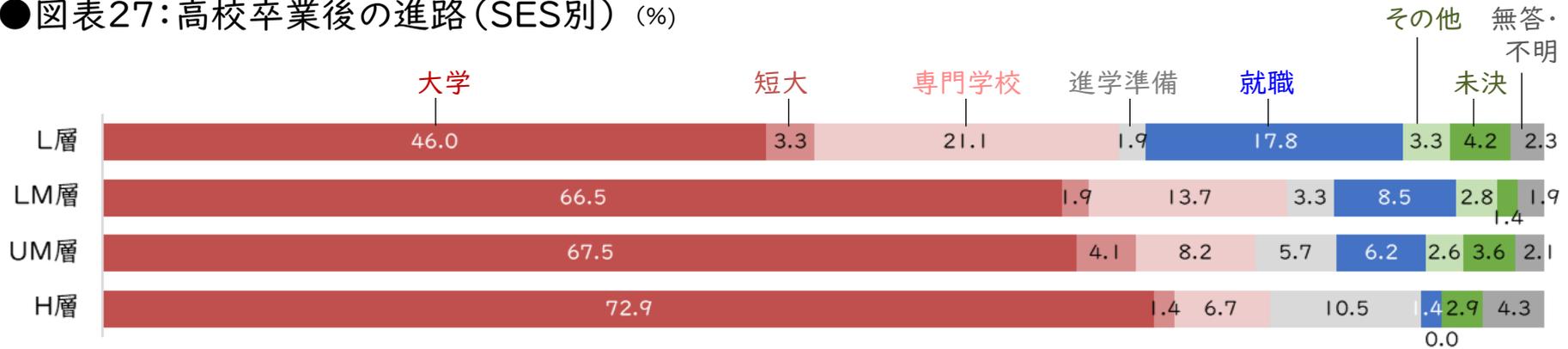
* 対象: 小1~高3の15,598名のうち、SESが判別できた15,544名を分析。小1~3は保護者が回答、小4~高3は子どもが回答。

* 学校の種別について、「その他」「無答・不明」の者は、図から省略した。

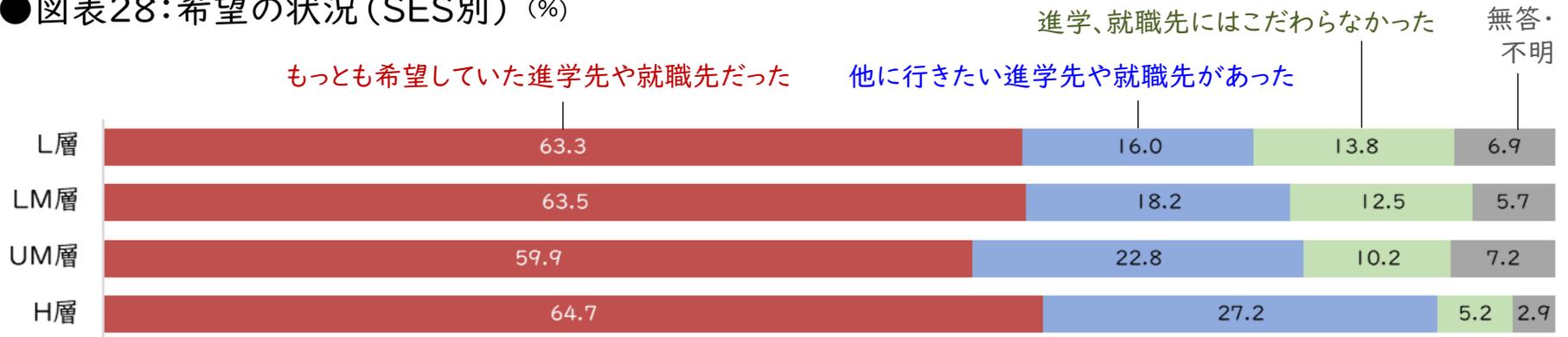
高校卒業後の進路

- L層の進路は、大学(46%)のほかに、専門学校(21%)、就職(18%)など多様である。
- LM層、UM層、H層の約7割が大学に進学しており、この3群については大きな差はみられない。
- SESを問わず、6割前後が「もっとも希望していた進学先や就職先」に進んでいる。

●図表27: 高校卒業後の進路 (SES別) (%)



●図表28: 希望の状況 (SES別) (%)



*出典: 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2020」(高3卒業時サーベイ、2021年3月実施)
*対象: 高3(卒業生、ただし高校に進学しなかった者や中退したものも含む)の子ども991名のうち、保護者への調査でSESが判別できた829名を分析。